

事務事業名		郷土博物館講座等開設事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	4	豊かな心を育む教育・文化づくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	郷土博物館
	政策	2	生涯にわたり学びのあるまちづくり				担当係			担当課長名	山口明良
	施策	2	歴史・文化資源の継承と芸術・文化活動の推進				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1	地域の歴史・文化の理解の促進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14850	一般	10	4	4	郷土博物館講座等開設事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例		任意的事業・義務的事業		任意的事業	
	実施方法						実施方法		直営		
	事業分類						事業分類		講座・教室・イベント等開催事業		
リーディングプロジェクト						リーディングプロジェクト		該当なし			
市長マニフェスト						市長マニフェスト		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)						
生涯学習の場として、子どもから大人まで利用してもらえるような魅力ある各種講座を開催する。受講者は、広報誌等を通じて募集する。また、実技を伴う講座や講話を聴講して学習する講座などバラエティに富んだ博物館にふさわしい講座を開催する。 (講座の計画立案→講師の選定・依頼→受講者の募集→講座準備→講座の開催)	11講座開設 ・田中正造に学ぶ・古文書入門講座・郷土史入門講座・昆虫立体きりおりがみ講座・田中正造ゆかりの地を訪ねて・栃木県南部の狒犬見学・まがたまを作ろう・アンギンでコースターを作ろう・民話を聞こう・石材の印作り講座・切り折り紙で龍綺兜をつくろう						
	活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	講座開催数	回	12	11	12		
	受講者数	人	289	225	250		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民 受講者	対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	市民人口	人	123,182	122,582	121,522		
	受講者数	人	289	225	250		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的 参加・体験型講座を通じて、郷土の考古・歴史・民俗等に対する理解と関心を高めてもらう。	成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	受講者/市民人口	%	0.2	0.2	0.2		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

地域の歴史と伝統を知ってもらい、郷土への愛着を育んでもらう。	上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
	佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.6	93.1	93.5	94.0	94.5

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(目標)		28年度(目標)		29年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円		154	136	190						
	事業費計(A)	千円		154	136	190	0	0				
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償金	146	報償金	118	報償金	168				
			消耗品費	8	消耗品費	18	消耗品費	22				
人件費	人	2		2		2						
のべ業務時間	時間	200		200		200						
人件費計(B)	千円	778		788		788		0		0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	932		924		978		0		0		

事務事業名	郷土博物館講座等開設事業	担当部	教育総務部	担当課	郷土博物館	担当係	
-------	--------------	-----	-------	-----	-------	-----	--

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、生涯学習の場として子どもから大人まで利用してもらえるような魅力ある博物館活動を展開していくために開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	生涯学習意欲の高揚に伴い、体験学習型講座が求められている。また、高齢化社会を迎え、生涯学習の必要性が益々増加している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	人気のある講座は受講の申し込みが殺到してすぐ定員を超えてしまうため、なかなか受講することができない。そのため、講座の回数を増やして欲しいとの要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	新規の参加者を増やすため、新しい講座「アンギンでつくろう」を開催した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 郷土の考古・歴史・民俗等について、講座を通して地域の歴史・文化にふれる機会を与えることは、教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的としている佐野市立博物館条例の趣旨に従うものであり、合致している。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 市民の文化活動を支援し、文化水準を向上させるのは、地方自治体の役割である。講座等への参加機会を安価に提供することは、公共の施設でなければ難しい。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 実態に即しており妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 これまで、「郷土史入門講座」や「田中正造に学ぶ」など博物館講座として既に定着しているものの他に、新しい講座を開設したり、バラエティに富んだ講師の選任に努める。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 講座の見直しを行っており、これ以上の削減の余地はない。また、愛好会会員(ボランティア)の協力を得ながら、必要最小限の人数で効率的に事業を行っている。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 講座を開催する際、実技を伴うものには材料費などの経費がかかる場合もあるので、受講者から応分の負担を徴収している。受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	本事業は、博物館の主要な事業であるため、休止も廃止も出来ない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																		
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) これまで、郷土史入門や古文書講座など博物館にふさわしい講座を実施してきたが、新規の講座を開設するなどして、市民に広く学習の場を提供していく必要がある。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下	×	×	講座が固定化しつつあり、受講者数が減少しているものもある。新しい講座を開設するなどして、利用者のニーズにあった魅力ある講座の実施に努める。
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○																		
	維持		×																	
	低下	×	×																	